

ソフトウェアマニュアル  
オプション

S10 mini シリーズ

# D.NET For Windows<sup>®</sup>

***S10mini***  
**シリーズ**

対象機種

S10mini モデルS  
S10mini モデルH  
S10mini モデルF  
S10mini モデルD

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。  
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問合わせください。

1999年 1月 (第1版) SAJ - 3 - 136 (A) (廃版)  
1999年12月 (第2版) SAJ - 3 - 136 (B) (廃版)  
2000年 9月 (第3版) SAJ - 3 - 136 (C) (廃版)  
2001年 3月 (第4版) SAJ - 3 - 136 (D) (廃版)  
2001年12月 (第5版) SAJ - 3 - 136 (E) (廃版)  
2003年 5月 (第6版) SAJ - 3 - 136 (F)

このマニュアルの一部、または全部を無断で転写したり複写することは、固くお断りいたします。  
このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。

## 安全上のご注意

システムの構築やプログラムの作成などは、このマニュアルの記載内容をよく読み、書かれている指示や注意を十分理解してから行ってください。誤操作により、システムが故障することがあります。

このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、手近なところに保管してください。このマニュアルの記載内容について疑問点または不明点がございましたら、最寄りの当社営業またはSEまでお知らせください。

お客様の誤操作に起因する事故発生や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供ソフトウェアを改変して使用した場合に発生した事故や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供以外のソフトウェアを使用した場合の信頼性については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

ファイルのバックアップ作業を日常業務に組み入れてください。ファイル装置の障害、ファイルアクセス中の停電、誤操作、その他何らかの原因によりファイルの内容を消失することがあります。このような事態に備え、計画的にファイルのバックアップを取っておいてください。

当社製品が故障や誤動作したりプログラムに欠陥があった場合でも、使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、保護・安全回路は外部に設け、人身事故や重大な災害に対する安全対策が十分確保できるようなシステム設計としてください。

非常停止回路、インタロック回路などはPLCの外部で構成してください。PLCの故障により、機械の破損や事故の恐れがあります。

運転中のプログラム変更、強制出力、RUN、STOPなどは十分安全を確認してから行ってください。誤操作により、機械の破損や事故の恐れがあります。

# はじめに

D.NETシステム For Windows® (以降、D.NETシステムと略します。)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このシステムは、パーソナルコンピュータ上で動作し、D.NETモジュールに対する各種セットアップ処理を実行します。

このマニュアルは、D.NETシステムにおける操作方法について記述してあります。

設定範囲などの詳細は、D.NETシステムのヘルプを参照してください。

このマニュアルは、下記バージョンのシステムに対応しています。

システム名称およびバージョン
D.NETシステム For Windows® 07-04

D.NETモジュールについては、下記マニュアルを参照してください。

## < 関連マニュアル >

ハードウェアマニュアル オプション D.NET (マニュアル番号 SMJ-1-106)

このマニュアルの中で特に指示しない数字は、10進表記とします。16進表記は、数字の先頭に「/」または「0x」を付加します。

< 例1 >      10進数：-12 0 4783

< 例2 >      16進数：/FE /00 /12AB

< 例3 >      16進数：0x1A 0x00 0x3215

## < 商標について >

- Microsoft® Windows® operating system, Microsoft® Windows® 95 operating system, Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® 2000 operating system, Microsoft® Windows® XP operating systemは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
  - Ethernetは米国Xerox Corp.の登録商標です。
  - DeviceNetはODVA (Open DeviceNet Vendor Association) の登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

## Windows® 2000, Windows® XP対応システムについて

Microsoft® Windows® 2000 operating system (以降、Windows® 2000と略します。), Microsoft® Windows® XP operating system (以降、Windows® XPと略します。)対応のシステムは、下記一覧のとおりです。

下記一覧のバージョンより古いバージョンのシステムは、Windows® 2000, Windows® XPに対応していませんので、Microsoft® Windows® 95 operating system (以降、Windows® 95と略します。), Microsoft® Windows® 98 operating system (以降、Windows® 98と略します。)のみの対応となります。(下記一覧のシステム名は、以降、各システムと略します。)

### < Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧 >

No.	システム名	型式	バージョン	Windows® 2000	Windows® XP
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	07-05		
2	ラダー図システム	S-7890-02	07-05		
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	07-02		
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	07-04		
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	07-04		
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	07-02		
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	07-02		
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	07-01		
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	08-01		
10	RPDP/S10 SYSTEM	S-7891-10	03-03	( *2 )	× ( *1 )
11	NX/ACP-S10	S-7891-11	01-02	( *2 )	× ( *1 )
12	NX/Ladder	S-7891-12	02-01	( *2 )	× ( *1 )
13	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	07-02		
14	NX/HOST-S10	S-7890-14	07-01		
15	4 ラダー図システム	S-7890-17	07-05		
16	4 Hラダー図システム	S-7890-18	07-05		
17	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	06-01		
18	H7338サポートシステム	S-7890-20	07-01		
19	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	07-01		
20	CPU間リンクシステム	S-7890-22	07-01		
21	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	07-01		
22	外部機器リンクシステム	S-7890-24	07-02		
23	S10ET LINKシステム	S-7890-25	07-02		
24	J.NETシステム	S-7890-27	07-02		
25	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	07-03		
26	ET.NETシステム	S-7890-29	07-01		
27	FL.NETシステム	S-7890-30	07-03		
28	D.NETシステム	S-7890-31	07-04		
29	BSCシステム	S-7890-32	07-01		
30	HDLCシステム	S-7890-33	07-01		
31	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	07-04		
32	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	07-01		
33	IR.LINKシステム	S-7890-36	07-02		
34	クロスCコンパイラ (メタ・グラフィックス・ジャパン株式会社製)	MCP68K	5.3	( *2 )	× ( *1 )

: 対応、× : 非対応

(\*1) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® XPに非対応のため、Windows® 2000で使用してください。

(\*2) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® 2000対応版 (バージョン5.3以降) が前提です。

<用語の定義>

- Nコイル : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したラダープログラムです。
- プロセス : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したHI-FLOWプログラムです。
- コンパイル : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムをPCsで実行できる形態（Nコイル、プロセスなど）に変換します。
- ビルド : 修正したアプリケーションプログラムのみコンパイルします。
- リビルド : 存在するすべてのアプリケーションプログラムをコンパイルします。
- シート : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムなどを作成するための用紙で、パソコン上で管理します。
- PCs : Programmable Controllersの略です。  
S10 およびS10miniシリーズ等のPLCの総称です。
- PLC : Programmable Logic Controllerの略です。  
プログラム内蔵方式でシーケンス制御をする工業用電子装置です。  
S10 およびS10miniシリーズ等もPLCに該当します。

<記憶容量の計算値についての注意>

2<sup>n</sup>計算値の場合（メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など）

1KB（キロバイト）= 1,024バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,048,576バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,073,741,824バイトの計算値です。

10<sup>n</sup>計算値の場合（ディスク容量など）

1KB（キロバイト）= 1,000バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,000<sup>2</sup>バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,000<sup>3</sup>バイトの計算値です。

# 目 次

1	ご使用にあたり .....	1
1.1	システムの概要 .....	2
1.2	必要なハードウェアとソフトウェア .....	2
2	システムインストール .....	5
2.1	インストール .....	6
2.2	アンインストール .....	7
2.3	システム立ち上げ .....	8
2.4	システム終了 .....	10
3	コマンド .....	11
3.1	コマンド体系 .....	12
3.2	システムパラメータ設定 .....	14
3.2.1	ステーションパラメータ設定 (マスタ・ピアモード) .....	16
3.2.2	ステーションパラメータ設定 (スレーブモード) .....	19
3.2.3	リモートI/Oタイムアウト情報収集パラメータ設定 (スレーブモード) .....	20
3.2.4	D.STATIONデータフォーマット変換設定 .....	24
3.3	Sテーブル情報 .....	27
3.4	ハードエラー情報 .....	29
3.5	スレーブエラー情報 .....	32
3.6	リフレッシュ時間ログ情報 .....	34
3.7	F/D機能 .....	35
3.7.1	保 存 .....	36
3.7.2	送 信 .....	37
3.7.3	比 較 .....	38
3.8	DeviceNetシリアルNo. .....	39
3.9	接続PCs変更 .....	40

# 1 ご使用にあたり

## 1 ご使用にあたり

このマニュアルは、Windows®パソコンプログラミングを使用するお客様を対象としています。

### 1.1 システムの概要

D.NETシステムは、一般的なWindows®アプリケーションと等価なオペレーションによりS10mini D.NETモジュールのシステムパラメータ設定、ステータス情報、ハードエラー情報、スレーブエラー情報、リフレッシュ時間ログ情報、F/D機能、およびDeviceNetシリアルNo.の表示が行えます。

### 1.2 必要なハードウェアとソフトウェア

各システムを使用するためには、以下のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

<パーソナルコンピュータ（以降、パソコンと略します。）>

項目	OS	Windows® 95 (*1)	Windows® 2000 (*1)	Windows® XP (*1)
		Windows® 98 (*1)		(*2)
CPU		Pentium 133MHz以上	Pentium 300MHz以上	
メモリ (RAM)		32MB以上	64MB以上	128MB以上
空きハードディスク容量 (*3)		20MB以上 / システム (ただし、OSインストール、オプションモジュールインストールは、10MB以上 / システム)		
FDドライブ		1台以上 (FDにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
CD-ROMドライブ		1台以上 (CD-ROMにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
イーサネット (10BASE-T)		1ポート以上 (パソコンとET.NETモジュールを接続する場合に必要)		
シリアル (D-sub9ピン)		1ポート以上 (PCsとパソコンをRS-232C接続する場合、またはET.NETモジュールにIPアドレスを設定する場合に必要)		
PCカード (PC Card Standard (JEITA V4.2) 準拠TYPE またはTYPE )		1スロット以上 (パソコンとパラレルインタフェースモジュール (LWZ400) を接続する場合、下記GP-IBカードと共に必要) GP-IBカード: PCMCIA-GPIB (型番: 777438-02) (日本ナショナルインスツルメンツ株式会社製)		
ディスプレイ		800 × 600ピクセル以上の解像度		
Microsoft® Internet Explorer		バージョン4.01以降		

(\*1) OSのサービスパックはソフトウェア添付資料を参照してください。

(\*2) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 34を除きます。

(\*3) 各システムをインストールするために必要な容量です。さらにユーザプログラム保存用の空き容量が必要です。

<パソコン以外のハードウェア>

- ・ S10mini CPUモジュール
- ・ S10mini電源モジュール
- ・ S10mini D.NETモジュール (LQE070、LQE170、LQE175)
- ・ S10miniマウントベース
- ・ パソコンとPCs間の接続ケーブル
- ・ 必要に応じたりモートI/Oステーション、電源、マウントベース、オプションモジュール、入出力モジュールおよび配線ケーブル

留意事項
この製品を使用するユーザは、Windows®環境およびユーザインタフェースについての知識が必要です。このシステムは、Windows®標準に従っています。このマニュアルは、基本となるWindows®の使用法を習得しているユーザを対象にして記述されています。

パソコン設定上の注意
サスペンド機能を持ったパソコンを使用する場合は、サスペンド機能をOFFにしてください。このシステムを実行中にサスペンド機能が動作すると、正常に動作しないことがあります。

## 2 システムインストール

## 2 システムインストール

### 2. 1 インストール (\*)

まず、お手元のCDが正しいものか確認してください。

各システムをインストールするには、システムのCDのDISK1フォルダに格納されているSetup.exeをダブルクリックします。インストール後、インストールしたプログラムの画面は表示されません。

なお、各システムをインストールするためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。もし、インストールされていない場合は、インストール後に各システムをインストールしてください。

#### 注 意

各システムを動作させるためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。インストールされていない場合、各システムが正常に動作しません。

各システムをインストールする前に、すべてのWindows®プログラムを必ず終了してください。ウイルス監視ソフトウェアなどメモリに常駐しているプログラムも必ず終了してください。終了せずにインストールすると、エラーが発生する場合があります。その場合は、

「2. 2 アンインストール」を参照して、一旦システムをアンインストールし、すべてのWindows®プログラムを終了してから、再度各システムをインストールしてください。

Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。

Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。「制限付きアカウント」では各システムが正常に動作しません。

(\*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

## 2.2 アンインストール(\*)

バージョンアップ時などのアンインストールは、以下の手順で行います。

### (1) Windows® 95, Windows® 98からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックし、[セットアップと削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

### (2) Windows® 2000からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

### (3) Windows® XPからのアンインストール

[スタート]メニューの([設定] - ) [コントロールパネル]を開きます。[プログラムの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの([設定] - ) [コントロールパネル] - [プログラムの追加と変更]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

デスクトップ等に、各システム実行ファイルのショートカットを作成した場合は、そのショートカットを削除してください。

## 注 意

Windows®でアンインストール中に[共有ファイルを削除しますか?]画面が表示された場合は、 ボタンをクリックして共有ファイルを削除しないでください。

Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。

Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。

Windows® 2000を使用してアンインストール時、[アプリケーションの追加と削除]画面がロック(操作不能)状態となった場合は、Windows®の[スタート]メニューの[シャットダウン]から一旦ログオフし、再度[Windowsへログオン]画面にてログオンしてください。

(\*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

## 2 システムインストール

### 2.3 システム立ち上げ(\*)

(1) 各システムでインストールされるシステムは、Windows®の[スタート]メニューに自動的に登録されます。この[スタート]メニューから、[(すべての)プログラム] - [Hitachi S10] - 「各システム」を選択して起動してください。

各システムをインストール時にログオンしたユーザ名と、各システムを起動するユーザ名が異なる場合、各システムが[スタート]メニューに表示されません。その場合は、下記の各システムの実行ファイル(拡張子.exe)のショートカットをデスクトップ等に作成し、そのショートカットをダブルクリックして各システムを起動してください。

#### <実行ファイル格納ディレクトリー一覧>

No.	システム名	型式	実行ファイル格納ディレクトリ(*1)	実行ファイル名
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	C:\¥Hitachi¥S10	S10Ladder.exe S10Tool.exe
2	ラダー図システム	S-7890-02	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDC	S10Ladder.exe
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	C:\¥Hitachi¥S10¥HF	S10Tool.exe
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMS	Cpms.exe
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMSE	Cpmse.exe
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUG	Debugger.exe
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUGE	DebuggerE.exe
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	C:\¥Hitachi¥S10¥GPIB	Gpib.exe
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	C:\¥Hitachi¥S10¥BACKUP	SysAllSaveLoad.exe
10	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	C:\¥Hitachi¥S10¥NX	NXTool.exe
11	4 ラダー図システム	S-7890-17	C:\¥Hitachi¥S10¥4ALDC	S10Ladder_4A.exe
12	4 Hラダー図システム	S-7890-18	C:\¥Hitachi¥S10¥4AHLDC	S10Ladder_4AH.exe
13	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	C:\¥Hitachi¥S10¥CFCONV	Cfconv.exe
14	H7338サポートシステム	S-7890-20	C:\¥Hitachi¥S10¥H7338	H7338.exe
15	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	C:\¥Hitachi¥S10¥HISRIO	HiSpeedRIO.exe
16	CPU間リンクシステム	S-7890-22	C:\¥Hitachi¥S10¥CPULINK	CpuLink.exe
17	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	C:\¥Hitachi¥S10¥ANALOG	AnalogPuls.exe
18	外部機器リンクシステム	S-7890-24	C:\¥Hitachi¥S10¥EXLINK	ExLink.exe
19	S10ET LINKシステム	S-7890-25	C:\¥Hitachi¥S10¥ETLINK	EtherNet.exe
20	J.NETシステム	S-7890-27	C:\¥Hitachi¥S10¥JNET	JNet.exe
21	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	C:\¥Hitachi¥S10¥ODRING-SDLINK	ODRing.exe
22	ET.NETシステム	S-7890-29	C:\¥Hitachi¥S10¥ETNET	Et_Net.exe
23	FL.NETシステム	S-7890-30	C:\¥Hitachi¥S10¥FLNET	FLnet.exe
24	D.NETシステム	S-7890-31	C:\¥Hitachi¥S10¥DNET	DNet.exe
25	BSCシステム	S-7890-32	C:\¥Hitachi¥S10¥BSC	BSC.exe
26	HDLCLINKシステム	S-7890-33	C:\¥Hitachi¥S10¥HDLCLINK	HDLCLINK.exe
27	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDCM	S10LadderM.exe
28	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	C:\¥Hitachi¥S10¥HFMM	S10ToolM.exe
29	IR.LINKシステム	S-7890-36	C:\¥Hitachi¥S10¥IRLINK	IrLink.exe

(\*1) インストール先ドライブ名が「C」の場合のディレクトリ名です。

(\* ) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

- (2) [ D.NET ] 画面が表示されます。この状態でD.NETシステムは立ち上がっています。  
設定する「チャンネル」と「動作モード」を選択し、 **OK** ボタンをクリックします。



- (3) [ D.NET ] 画面が表示されます。この後は、目的のコマンドをクリックしてください。



## 2 システムインストール

---

### 2.4 システム終了

[ D.NET ] 画面において、  または  ボタンをクリックします。



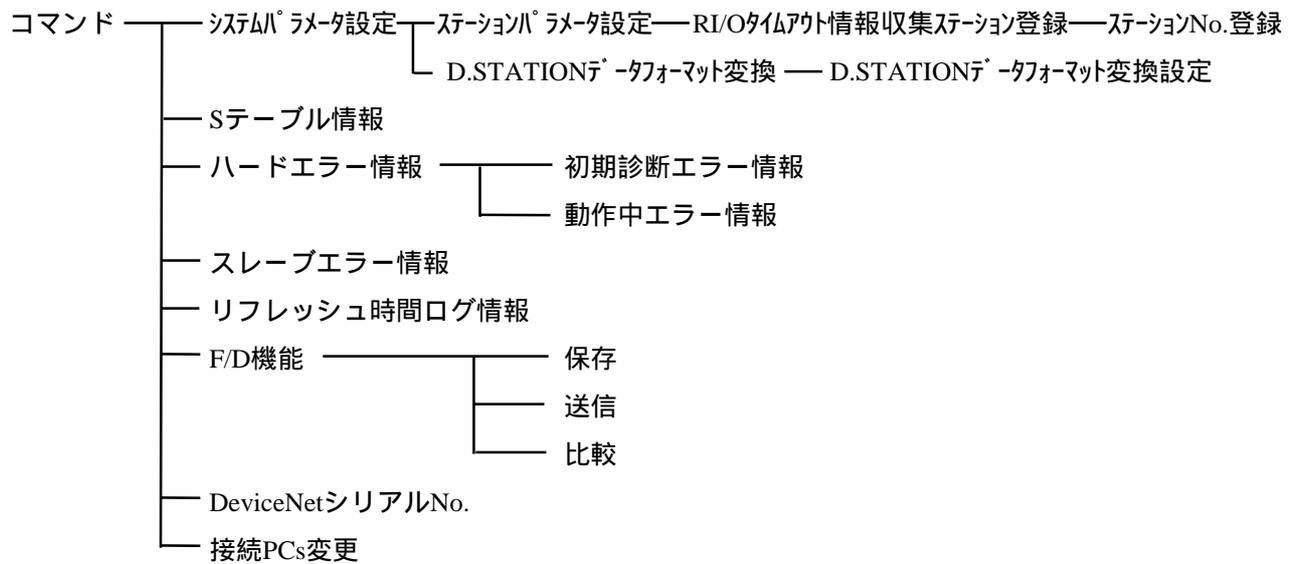
## 3 コマンド

### 3 コマンド

#### 3.1 コマンド体系

D.NETシステムにおけるコマンド体系を以下に示します。

コマンドの概要を3.2節以降に示します。コマンドの詳細については、ヘルプを参照してください。



## 注 意

各コマンドの説明で使用しているD.NETモジュールマイクロプログラムバージョン（以降、D.NETモジュールバージョンと略します。）は、各画面のタイトル部およびCPUインディケータの表示で確認してください。

D.NETモジュールバージョン	画面タイトル部	CPUインディケータ
Ver1.0 Rev0.0	Ver1.0	DN*1.0
Ver2.0 Rev0.0	Ver2.0	DN*2.0
Ver2.0 Rev1.0	Ver2.0	DN*2.1
Ver3.0 Rev0.0	Ver3.0	DN*3.0

DN\*の「\*」は、チャンネル（0～3）を表わします。

D.NETシステムが対応するD.NETモジュールバージョンを以下に示します。なお、D.NETシステムが対応していないバージョンを設定する場合は、D.NETシステムが対応している機能や項目に限定した設定となります。

D.NETシステム 発行番号	D.NETモジュールバージョン			
	Ver1.0 Rev0.0	Ver2.0 Rev0.0	Ver2.0 Rev1.0	Ver3.0 Rev0.0
07-00			×	×
07-01				×
07-02				×
07-03				
07-04				

: 対応 × : 非対応

### 3 コマンド

## 3. 2 システムパラメータ設定

機能：システムパラメータの設定を行います。

また、すべての設定（システムパラメータ、ステーションパラメータ）をPCsへ書き込みます。

D.NETモジュールバージョン1.0（以降、D.NETモジュールVer1.0と略します。）の場合、スレーブモードの使用はできません。

このツールで編集した各種パラメータは、一度PCsに書き込み後、F/D機能の保存を使用することで初めてパソコン上に保存できます（「3. 7 F/D機能」を参照してください）。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [D.NET]画面から、**システムパラメータ設定** ボタンをクリックします。
- (2) [システムパラメータ設定]画面が表示されます。PCs側に設定されている値を表示します。表示される画面は、D.NETモジュールバージョンにより異なります。

システムパラメータ設定 Ver1.0 (マスター・ピアモード) - チャンネル1

ピアリフレッシュ時間(P) 100 (10msec - 3000msec) 書き込み

マスター/スレーブリフレッシュ時間(M) 100 (10msec - 3000msec) キャンセル

スレーブタイムアウト検出レジスタ(E) QW000 QW030  未使用(N)

ステーションパラメータ設定 (S)

(D.NETモジュール Ver1.0マスター・ピアモードの場合)

システムパラメータ設定 Ver2.0 (マスター・ピアモード) - チャンネル0

ピアリフレッシュ時間(P) 100 (msec) 書き込み

マスター/スレーブリフレッシュ時間(M) 100 (msec) キャンセル

スレーブタイムアウト検出レジスタ(E) QW000 QW030  未使用(N)

ステーションパラメータ設定 (S)

(D.NETモジュール Ver2.0マスター・ピアモードの場合)

システムパラメータ設定 Ver3.0 (マスター・ピアモード) - チャンネル0

ピアリフレッシュ時間(P) 100 (3msec - 1000msec) 書き込み

マスター/スレーブリフレッシュ時間(M) 100 (3msec - 1000msec) キャンセル

スレーブタイムアウト検出レジスタ(E) QW000 QW030  未使用(N)

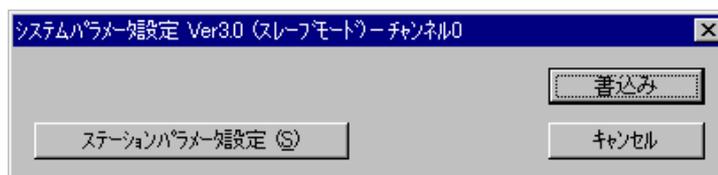
PCs OK信号連携(C)

ステーションパラメータ設定 (S) D.STATIONパラメータフォーマット変換設定 (D)

(D.NETモジュール Ver3.0マスター・ピアモードの場合)



(D.NETモジュール Ver2.0スリープモードの場合)



(D.NETモジュール Ver3.0スリープモードの場合)

- (3) 設定を書き込む場合は、 ボタンをクリックします。書き込まない場合は、 ボタンをクリックします。

### 注 意

PCs OK信号連携は、以下に示す設定をします。

チェックしていないとき：PCs OK信号に関係なく、常にD.NETモジュールが通信を開始する状態になります（デフォルト）。

チェックしているとき：PCs OK信号がONになったときにD.NETモジュールが通信を開始する状態になり、OFFになったときに通信を停止する状態になります。

PCs OK信号連携をする設定をした場合、PCs OK信号がOFFになったときにD.NETモジュールの通信が停止してしまいますので注意してください。

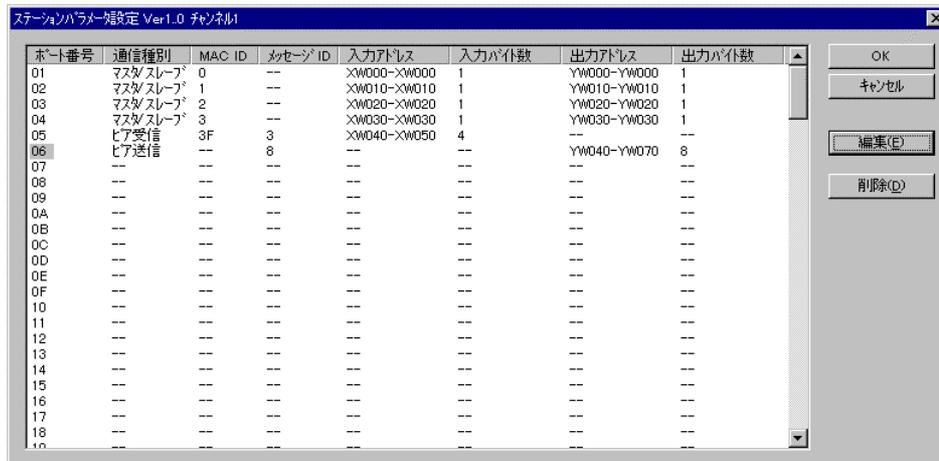
### 3 コマンド

#### 3. 2. 1 ステーションパラメータ設定 ( マスタ・ピアモード )

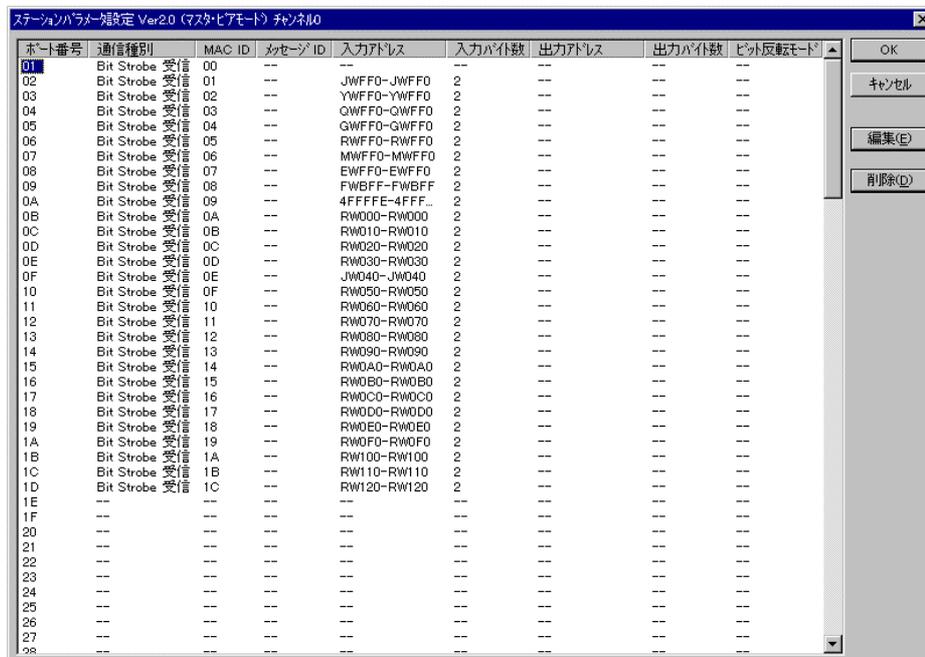
機能 : ステーションパラメータ設定の編集をします。

操作 : 以下に操作手順を示します。

- (1) マスタ・ピアモードの [ システムパラメータ設定 ] 画面から、 **ステーションパラメータ設定** ボタンをクリックします。
- (2) [ ステーションパラメータ設定 ] 画面が表示されます。編集する「ポート番号」をクリックし、 **編集** ボタンをクリックします。



( D.NETモジュール Ver1.0の場合 )



( D.NETモジュール Ver2.0の場合 )

ポート	通信種別	MAC	メッセージ	入力アドレス	入力	出力アドレス	出力	ビット	バイト	コネクション	D-STATION
01	ビット送信	01	1	XW000-XW000	2	YW000-YW000	2	2	2	800	100000-100002
02	ビット受信	01	2	DW000-DW000	2						
03	Poll	02				MW000-MW000	2				
04	Bit Strobe 送信					JW010-JW040	8				
05	Bit Strobe 受信			QW100-QW130	8						
06-27	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(D.NETモジュール Ver3.0の場合)

- (3) [パラメータ編集]画面が表示されます。「通信種別」を選択し、各項目を設定してください。

パラメータ編集 ポート01

通信種別(D) マスタ/スレーブ

ID

MAC ID 01

メッセージ ID(S) 0

入力アドレス(A) XW000 ~ XW000

入力バイト数(B) 1

出力アドレス(D) YW000 ~ YW010

出力バイト数(E) 3

OK

キャンセル

(D.NETモジュール Ver1.0の場合)

### 3 コマンド

パラメータ編集 ポート01

通信種別(T) Poll

OK

キャンセル

ID

MAC ID(M) / 01

メッセージ ID(S) / 0

ビット反転モード(W)

入力アドレス(A) XW000 ~ XW000

入力バイト数(B) / 001

出力アドレス(D) YW000 ~ YW030

出力バイト数(Y) / 008

(D.NETモジュール Ver2.0の場合)

パラメータ編集 ポート01

通信種別(T) Poll

OK

キャンセル

ID

MAC ID(M) / 01

メッセージ ID(S) / 0

ビット反転モード(W)

バイト反転モード(X)

入力アドレス(A) XW000 ~ XW000

入力バイト数(B) / 001

出力アドレス(D) YW000 ~ YW030

出力バイト数(Y) / 008

コネクションタイムアウト監視

コネクションタイムアウト監視(O)

コネクションタイムアウト監視時間 800 (msec)

D.STATIONステータス情報収集

D.STATIONステータス情報収集(O)

情報格納アドレス / 100000 ~ 100002

(D.NETモジュール Ver3.0の場合)

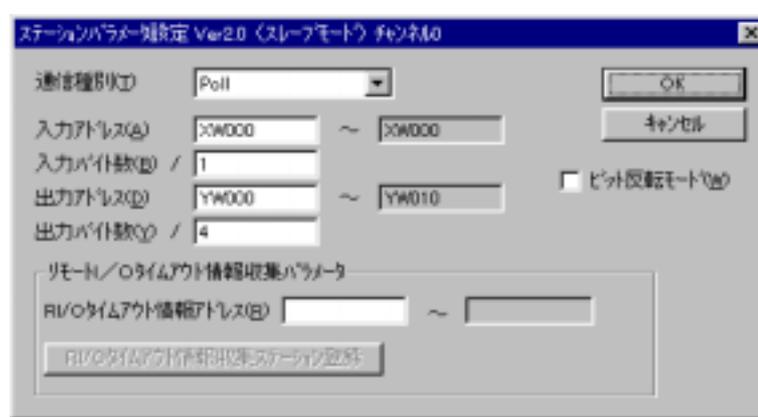
- (4) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### 3. 2. 2 ステーションパラメータ設定 (スレーブモード)

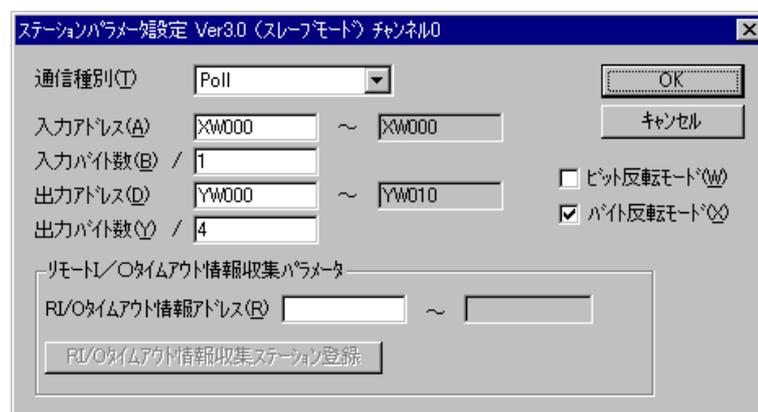
機能：ステーションパラメータ設定の編集をします (D.NETモジュールVer1.0の場合、スレーブモードは使用できません)。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) スレーブモードの [システムパラメータ設定] 画面から、ステーションパラメータ設定 ボタンをクリックします。
- (2) [ステーションパラメータ設定] 画面が表示されます。「通信種別」を選択し、各項目を設定してください。



(D.NETモジュール Ver2.0の場合)



(D.NETモジュール Ver3.0の場合)

- (3) 設定が終了したら、OK ボタンをクリックします。設定しない場合は、キャンセル ボタンをクリックします。

### 3 コマンド

#### 3. 2. 3 リモートI/Oタイムアウト情報収集パラメータ設定（スレーブモード）

機能：リモートI/Oのタイムアウト情報を収集するステーションの登録または削除を行います。登録できるステーションは最大24台です。

操作：リモートI/Oのタイムアウト情報を収集するステーションの登録または削除の操作手順を以下に示します。

- (1) [ステーションパラメータ設定]画面（前図参照）の「RI/Oタイムアウト情報アドレス」を入力します。RI/Oタイムアウト情報アドレスは、リモートI/Oのタイムアウト情報を格納する位置です。設定範囲は、[ステーションパラメータ設定]画面で指定した「出力アドレス」の範囲内で指定してください。[RI/Oタイムアウト情報アドレス]の最終アドレスは、[RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録]画面で登録したステーション数により変化します（<リモートI/Oタイムアウト情報>参照）。

（注）

出力エリアのうち、RI/Oタイムアウト情報アドレスで指定した位置には、タイムアウト情報が書き込まれる（PI/Oデータは、タイムアウト情報によって上書きされる）ため、この位置のPI/Oデータは、参照できなくなります。

<例>

スレーブ側のD.NETモジュールの出力エリアをYW000～YW3F0に設定、RI/Oタイムアウト情報アドレスをYW000に設定し、マスタ側の入力アドレスをXW000～XW3F0とした場合、マスタ側のXW000のエリアのPI/Oデータは、スレーブ側のRI/Oタイムアウト情報で上書きされます。

- (2) [ステーションパラメータ設定]画面（前図参照）の **RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録** ボタンをクリックします。
- (3) [RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録]画面が表示されます（下図）。



## &lt;ステーションの登録&gt;

- (1) [ RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面の「登録番号」をクリック後、 ボタンをクリックするか、「登録番号」をダブルクリックしてください。
- (2) [ ステーションNo.登録 ] 画面が表示されます（下図）。



- (3) 「ステーションNo.」にリモートI/Oタイムアウト情報収集を行うリモートI/OステーションNo.を指定してください（ステーションNo.は16進数にて入力します）。 ボタンをクリックすると、[ RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面に指定したステーションNo.が表示されます。 ボタンをクリックした場合は、[ RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面に指定したステーションNo.は表示されません。指定できるステーションNo.の範囲は、0～7Fまでとなります。登録番号1にステーションNo.1を登録した場合の、[ RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面を下図に示します。



## &lt;ステーションの削除&gt;

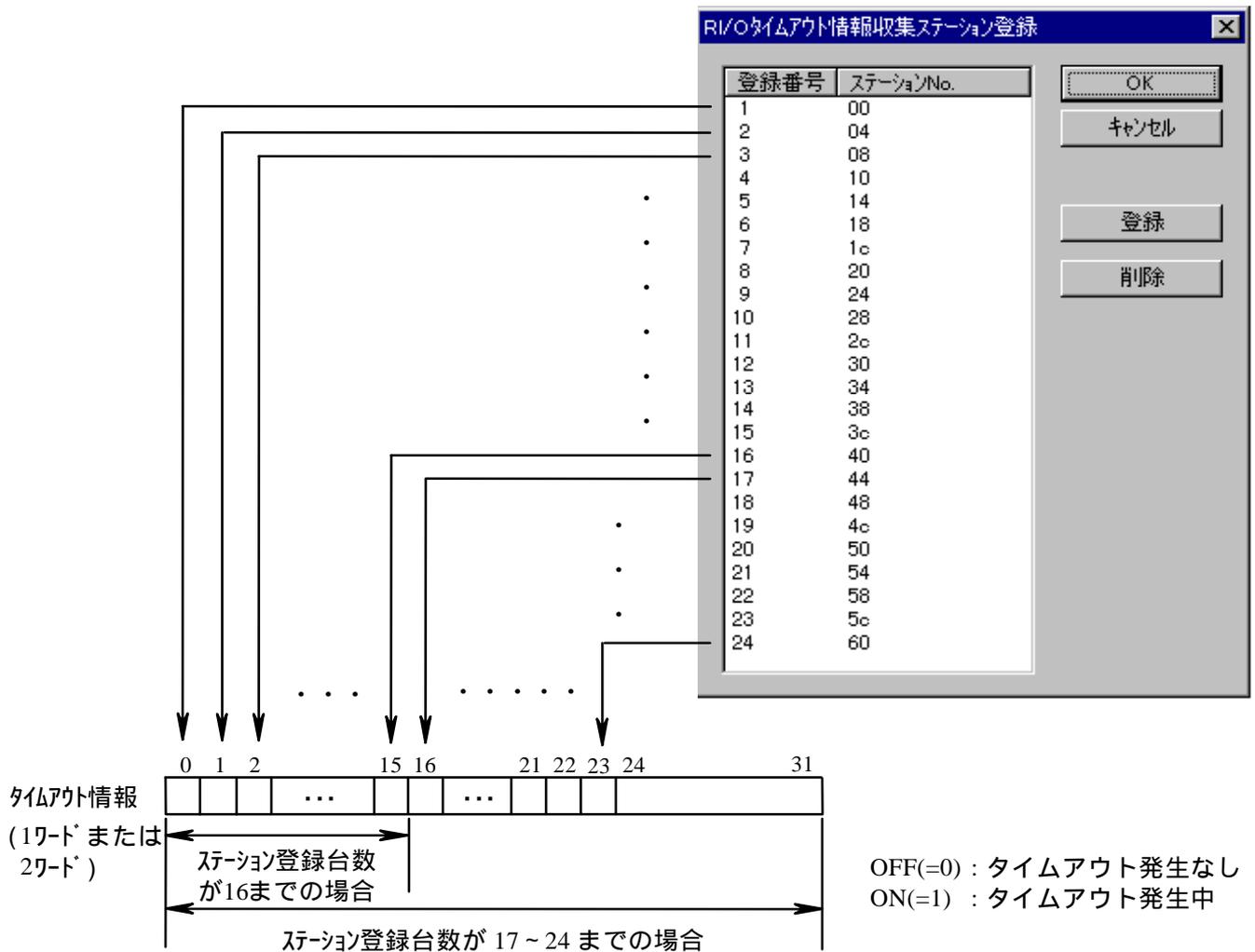
[ RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面で、削除したい「ステーションNo.」の「登録番号」をクリック後、 ボタンをクリックしてください。[ RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面から指定したステーションNo.が削除されます。

### 3 コマンド

#### <リモートI/Oタイムアウト情報>

リモートI/Oのタイムアウト情報は、下図に示すように [ R/I/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面で、「ステーションNo.」を登録した「登録番号」とタイムアウト情報の各ビットが対応付けられます。

リモートI/Oは、最大12ステーション/回線、合計で24ステーションまで分散配置可能なため、17ステーション以上登録する場合、タイムアウト情報は2ワードとなります。



### 注 意

[ RI/Oタイムアウト情報収集ステーション登録 ] 画面で設定した情報は、[ システムパラメータ設定 ] 画面の **書込み** ボタンをクリックしたタイミングでPCsへ反映されます。リモートI/Oタイムアウト情報収集機能は、D.NETモジュールのVer2.0 Rev1.0以降に対応しています。これより前のD.NETモジュールでは使用できません。

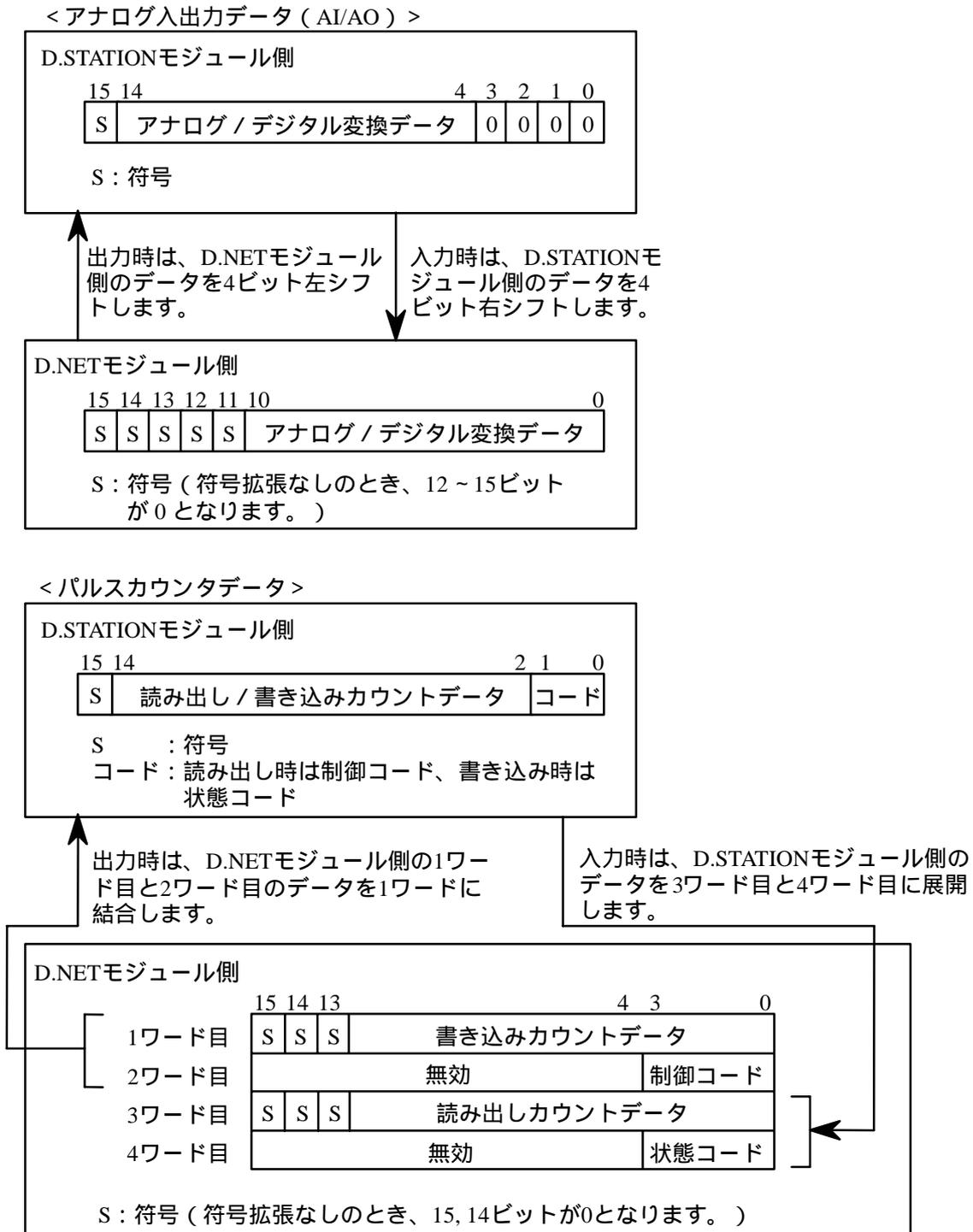
リモートI/Oタイムアウト情報収集機能は、スレーブ形態での送信（出力）時にのみサポートしています（マスタ・ピア形態では使用できません）。

タイムアウト情報が設定される出力エリアは、リモートI/Oの入力としては使用できません。

### 3 コマンド

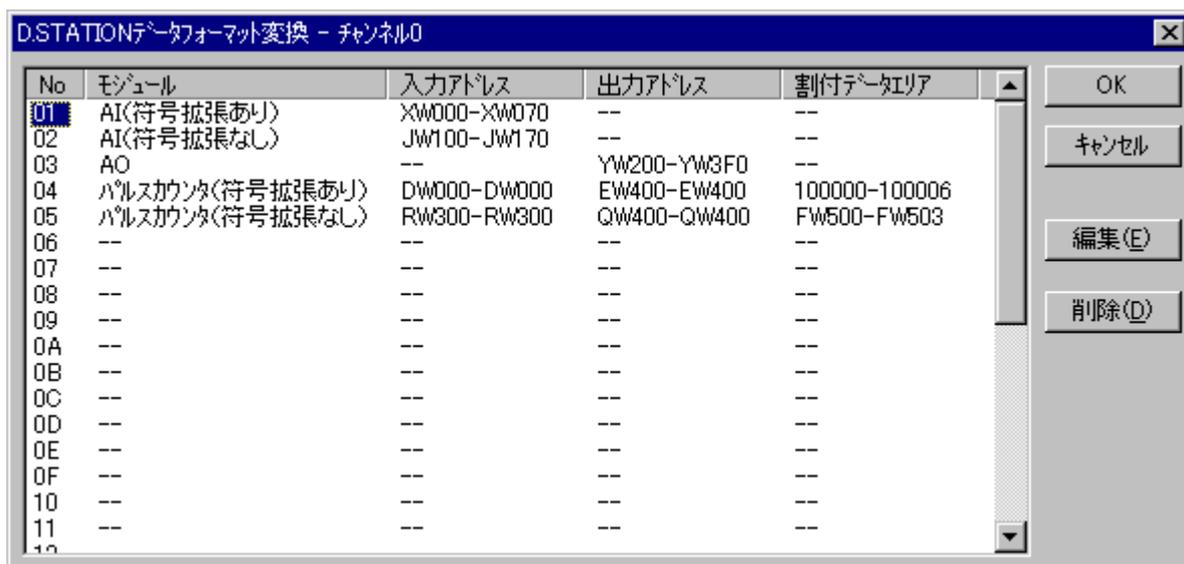
#### 3. 2. 4 D.STATIONデータフォーマット変換設定

機能：D.STATIONが使用するアナログモジュール、パルスカウンタモジュールの入出力データを変換します。変換するフォーマットを以下に示します。

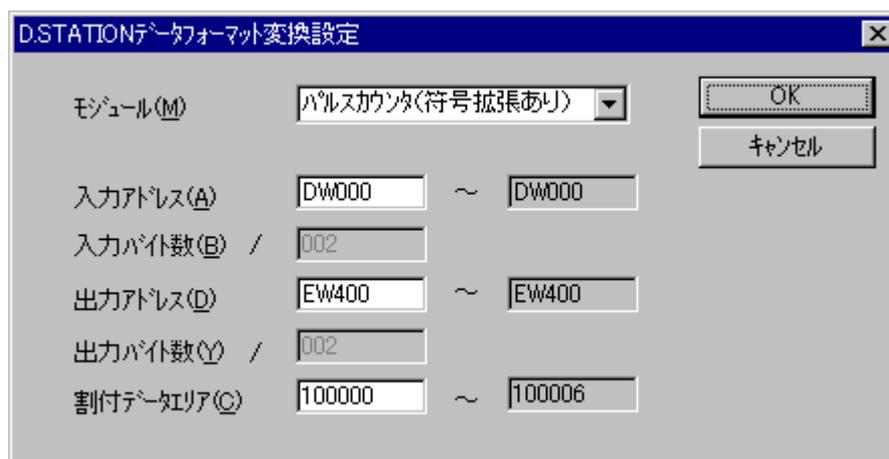


操作：以下に操作手順を示します。

- (1) マスタ・ピアモードの [ システムパラメータ設定 ] 画面から、  
D.STATIONデータフォーマット変換設定 ボタンをクリックします。
- (2) [ D.STATIONデータフォーマット変換 ] 画面が表示されます。編集する「No」をクリックし、  
編集 ボタンをクリックします。



- (3) [ D.STATIONデータフォーマット変換設定 ] 画面が表示されます。モジュールを選択し、各項目を設定してください。



- (4) 設定が終了したら、OK ボタンをクリックします。設定しない場合は、キャンセル ボタンをクリックします。

#### 注 意

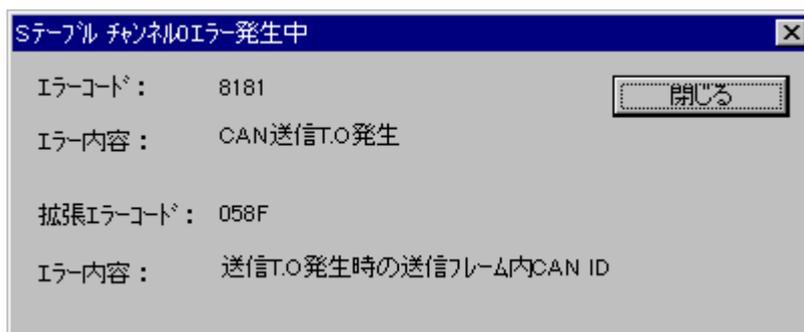
D.STATIONデータフォーマット変換設定機能は、D.NETモジュールVer3.0以降、D.NETシステムの発行番号07-03以降に対応しています。これより前のD.NETモジュールおよびD.NETシステムでは使用できません。

### 3.3 Sテーブル情報

機能：Sテーブル情報を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [D.NET]画面から、**Sテーブル情報** ボタンをクリックします。
- (2) [Sテーブル]画面が表示されます。



- (3) Sテーブル情報表示を終了する場合は、**閉じる** ボタンをクリックします。

### 3 コマンド

Sテーブル情報のエラーコードと内容を以下に示します。

No.	エラーコード	エラーの内容	拡張エラーコード		拡張エラーコードの内容	対策
			上位バイト	下位バイト		
1	0x7381	伝送路バースト発生	なし		なし	(*1)
2	0x4281	MAC ID重複	MAC ID(0x0000 ~ 0x003F)		重複しているMAC ID	(*2)
3	0x5188	通信数設定誤り	なし		なし	パラメータの設定を確認してください。
4	0x5189	パラメータ設定誤り	0x01 (ポート番号異常)	ポート番号 (0x00-0xA0)	ポート番号/1~/A0の範囲外に設定	
			0x02 (メッセージID異常)	ポート番号 (0x00-0xA0)	メッセージIDが0~/Fの範囲外に設定	
			0x03 (周期異常)	ポート番号 (0x00-0xA0)	送信周期10, 20, 50, 100, 200, 500, 1000ms以外に設定	
			0x04 (転送語数異常)	ポート番号 (0x00-0xA0)	語数/0~/100バイトの範囲外に設定	
			0x05 (通信形態混在)	ポート番号 (0x00-0xA0)	マスターモードとスレーブモード混在	
			0x06 (MAC ID異常)	ポート番号 (0x00-0xA0)	MAC ID 0 ~ 3Fの範囲外に設定または自MAC IDを設定	
			0x07 (通信種別異常)	ポート番号 (0x00-0xA0)	通信種別 ビア送信、ビア受信、Poll、Bit Strobe以外に設定	
			0x08 (転送アドレス異常)	ポート番号 (0x00-0xA0)	転送アドレス範囲外に設定	
			0x0A (転送語数異常)	0x00固定	語数/0~/8バイトの範囲外に設定	
			0x0B (登録数異常)	MAC ID (0x00-0x3F)	D.STATIONデータフォーマット変換登録数超過 (D.STATION1台あたりの登録数は8ケースまで)	
			0x10 (送信語数異常)	0x00固定	スレーブモード 送信語数/0~/100バイトの範囲外に設定	
			0x11 (受信語数異常)	0x00固定	スレーブモード 受信語数/0~/100バイトの範囲外に設定	
			0x12 (通信形態混在)	0x00固定	スレーブモード マスターモードとスレーブモード混在	
			0x13 (通信種別異常)	0x00固定	スレーブモード 通信種別Poll以外に設定	
			0x14 (転送アドレス異常)	0x00固定	スレーブモード 転送アドレス範囲外に設定	
5	0x8181	CAN送信T.O発生	CAN ID		送信T.O発生時の送信フレーム内CAN ID	(*1)

(\*1) コネクタの緩み、ケーブルの配線、伝送速度、MAC ID, MODU NO.の設定を確認してください。

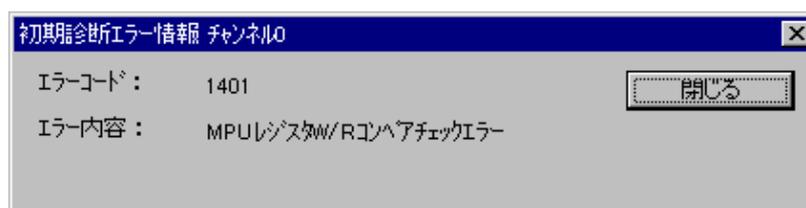
(\*2) Node Address設定スイッチの設定値を確認してください。

### 3. 4 ハードエラー情報

機能：ハードエラー情報を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ D.NET ] 画面から、 **ハードエラー情報** ボタンをクリックします。
- (2) 初期診断エラーが発生している場合は、 [ 初期診断エラー情報 ] 画面が表示されます。



- (3) 初期診断エラー情報表示を終了する場合は、 **閉じる** ボタンをクリックします。
- (4) 初期診断エラー情報のエラーコード、内容、その他の表示項目を以下に示します。

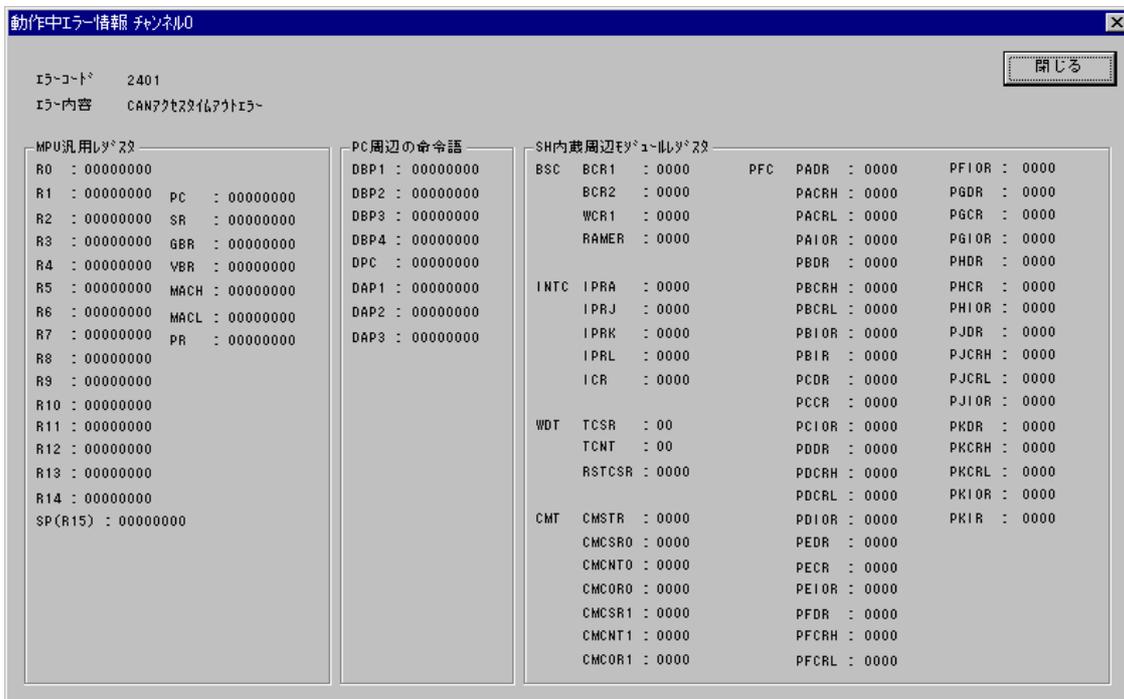
No.	エラーコード	エラー内容	その他の表示項目	対策	
1	0x1401	MPUレジスタW/ROMヘッダチェックエラー	なし	PCsを一度リセットし、元に戻しても正常にならない場合は、D.NETモジュールが故障している可能性があります。モジュールを交換してください。	
2	0x1402	MPU演算チェックエラー	なし		
3	0x1403	CANメモリコンパチブルチェックエラー	CANメモリアドレス、ライトデータ、リードデータ		
4	0x1404	MPU内蔵メモリコンパチブルチェックエラー	メモリアドレス、ライトデータ、リードデータ		
5	0x1405	フラッシュメモリ診断時のコンパチブルチェックエラー	フラッシュメモリアドレス、リードデータ1、リードデータ2		
6	0x1406	フラッシュメモリ診断時のチェックサムエラー(μProg)	フラッシュメモリアドレス、サム値		
7	0x1407	SRAM診断時のコンパチブルチェックエラー	SRAMアドレス、ライトデータ、リードデータ		
8	0x1408	フラッシュメモリからSRAMバックアップ時のコンパチブルチェックエラー(μProg)	SRAMアドレス、ライトデータ、リードデータ		
9	0x1409	ITU(MPU内蔵タイマ)診断時のエラー	エラーNo.= 1: 1msタイマ異常 (設定値より早くタイムアップ) 2: 1msタイマ異常 (設定値より遅れてタイムアップ) 3: 25msタイマ異常 (設定値より早くタイムアップ) 4: 25msタイマ異常 (設定値より遅れてタイムアップ)		
10	0x140A	MODU NO.スイッチ設定誤り	MODU NO.スイッチ設定値		MODU NO.スイッチの設定値を確認してください。
11	0x140B	フラッシュメモリからSRAMバックアップ時のコンパチブルチェックエラー(サブOS, パラメータ)	フラッシュメモリアドレス、ライトデータ、リードデータ		PCsを一度リセットし、元に戻しても正常にならない場合は、D.NETモジュールが故障している可能性があります。モジュールを交換してください。
12	0x140C	フラッシュメモリ診断時のチェックサムエラー(サブOS)	フラッシュメモリ先頭アドレス、サム値		
13	0x140D	フラッシュメモリ診断時のチェックサムエラー(パラメータ)	フラッシュメモリ先頭アドレス、サム値		

### 3 コマンド

- (5) 動作中エラーが発生している場合は、[動作中エラー情報]画面が表示されます(動作中エラーと初期診断エラーが同時に発生している場合は、動作中エラーを表示します)。



(D.NETモジュール Ver1.0、Ver2.0の場合)



(D.NETモジュール Ver3.0の場合)

- (6) 動作中エラー情報表示を終了する場合は、**閉じる** ボタンをクリックします。

- (7) 動作中エラーのエラーコードと内容を以下に示します。エラーが発生した場合は、PCsを一度リセットしてください。元に戻しても正常にならない場合は、D.NETモジュールが故障している可能性があります。モジュールを交換してください。

No.	エラーコード	エラー内容
1	0x2401	CANアクセスタイムアウトエラー
2	0x2402	SRAMライトプロテクトエラー
3	0x2403	共有メモリパリティエラー
4	0x2404	WDT T.Oエラー
5	0x2405	RESETタイマオーバーフローエラー
6	0x3404	一般不当命令
7	0x3406	スロット不当命令
8	0x3409	アドレスエラー
9	0x34XX	MPU例外エラー
10	0x346C	SRAMパリティエラー

XXは00～FFの任意の数です（ただし、04, 06, 09, 6Cを除きます）。

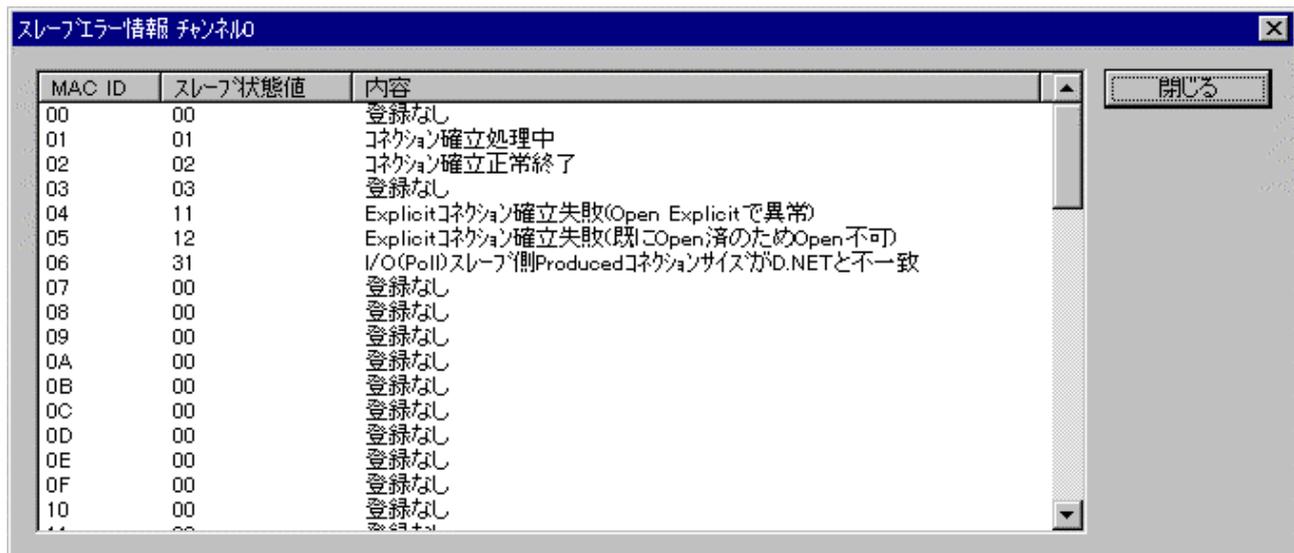
### 3 コマンド

#### 3.5 スレーブエラー情報

機能：スレーブエラー情報を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ D.NET ] 画面から、 **スレーブエラー情報** ボタンをクリックします。
- (2) [ スレーブエラー情報 ] 画面が表示されます。



The screenshot shows a window titled 'スレーブエラー情報 チャンネル' (Slave Error Information Channel). It contains a table with three columns: 'MAC ID', 'スレーブ状態値' (Slave Status Value), and '内容' (Content). The table lists various error states for different MAC addresses. A '閉じる' (Close) button is visible in the top right corner of the window.

MAC ID	スレーブ状態値	内容
00	00	登録なし
01	01	コネクション確立処理中
02	02	コネクション確立正常終了
03	03	登録なし
04	11	Explicitコネクション確立失敗(Open Explicitで異常)
05	12	Explicitコネクション確立失敗(既にOpen済のためOpen不可)
06	31	I/O(Poll)スレーブ側ProducedコネクションサイズがD.NETと不一致
07	00	登録なし
08	00	登録なし
09	00	登録なし
0A	00	登録なし
0B	00	登録なし
0C	00	登録なし
0D	00	登録なし
0E	00	登録なし
0F	00	登録なし
10	00	登録なし
11	00	登録なし

- (3) スレーブエラー情報表示を終了する場合は、 **閉じる** ボタンをクリックします。

スレーブエラーの状態値と内容を以下に示します。スレーブ状態値が0x00、0x01、0x02以外は、パラメータの設定および配線などを確認してください。

No.	スレーブ 状態値	内容
1	0x00	登録なし
2	0x01	コネクション確立処理中
3	0x02	コネクション確立正常終了
4	0x80	タイムアウト発生(Explicitコネクション確立失敗)
5	0x81	タイムアウト発生(I/O(Poll)コネクション確立失敗)
6	0x82	タイムアウト発生(I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗)
7	0x83	タイムアウト発生(I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗, I/O(Poll)は成功)
8	0x84	タイムアウト発生(I/O(Poll)スレーブ側Producedコネクションサイズ取得失敗)
9	0x85	タイムアウト発生(I/O(Poll)スレーブ側Consumedコネクションサイズ取得失敗)
10	0x86	タイムアウト発生(Explicit EPR設定失敗)
11	0x87	タイムアウト発生(Poll EPR設定失敗)
12	0x88	タイムアウト発生(Bit Strobe EPR設定失敗)
13	0x89	タイムアウト発生(Bit Strobe EPR設定失敗, Pollは成功)
14	0x90	Pollレスポンスタイムアウト発生
15	0x91	Bit Strobeレスポンスタイムアウト発生
16	0x11	Explicitコネクション確立失敗(Open Explicitで異常)
17	0x12	Explicitコネクション確立失敗(既にOpen済のためOpen不可)
18	0x13	Explicitコネクション確立失敗(他マスタと接続済のためOpen不可)
19	0x14	Explicitコネクション確立失敗(M/サーバ側異常のためOpen不可)
20	0x15	Explicitコネクション確立失敗(既にM/サーバ側確立済のためOpen不可)
21	0x16	I/O(Poll)コネクション確立失敗(エラーレスポンス受信)
22	0x17	I/O(Poll)コネクション確立失敗(既にI/Oコネクション確立済)
23	0x18	I/O(Poll)コネクション確立失敗(他マスタと接続済のためOpen不可)
24	0x19	I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗(エラーレスポンス受信)
25	0x1A	I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗(エラーレスポンス受信), I/O(Poll)は成功
26	0x1B	I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗(既にI/Oコネクション確立済)
27	0x1C	I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗(既にI/Oコネクション確立済), I/O(Poll)は成功
28	0x1D	I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗(他マスタと接続済のためOpen不可)
29	0x1E	I/O(Bit Strobe)コネクション確立失敗(他マスタと接続済のためOpen不可), I/O(Poll)は成功
30	0x21	EPR設定失敗(Explicit)
31	0x22	EPR設定失敗(I/O(Poll))
32	0x23	EPR設定失敗(I/O(Bit Strobe))
33	0x24	EPR設定失敗(I/O(Bit Strobe)), I/O(Poll)は成功
34	0x31	I/O(Poll)スレーブ側ProducedコネクションサイズがD.NETと不一致
35	0x32	I/O(Poll)スレーブ側ConsumedコネクションサイズがD.NETと不一致
36	0x33	I/O(Poll)スレーブ側Producedコネクションサイズ取得失敗
37	0x34	I/O(Poll)スレーブ側Consumedコネクションサイズ取得失敗
38	0x2D	I/O通信時のEPR設定失敗(エラーレスポンス受信)
39	0x2E	I/O通信時のEPR設定失敗(レスポンスタイムアウト発生)
40	0x2F	I/Oステータス情報取得失敗
41	0x50	Explicitコネクション確立失敗(割当済)
42	0x51	Explicitコネクション確立失敗(Open済、割当済以外)
43	0x52	Explicitコネクション確立失敗(Open済)
44	0x70	Group3 Explicitコネクション解放失敗
45	0x8A	Explicitコネクション確立失敗(レスポンスタイムアウト発生)
46		自局

#### 3.6 リフレッシュ時間ログ情報

機能：ピアリフレッシュ時間、マスタ/スレーブリフレッシュ時間の現在リフレッシュ時間、最小リフレッシュ時間、最大リフレッシュ時間を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [D.NET]画面から、**リフレッシュ時間ログ情報** ボタンをクリックします。
- (2) [リフレッシュ時間ログ情報]画面が表示されます。各リフレッシュ時間は、画面を表示したときの時間となります。

- (3) 最新のリフレッシュ時間を表示する場合は、**更新** ボタンをクリックします。
- (4) リフレッシュ時間をクリアする場合は、**クリア** ボタンをクリックします。
- (5) リフレッシュ時間ログ情報表示を終了する場合は、**OK** ボタンをクリックします。

#### 注 意

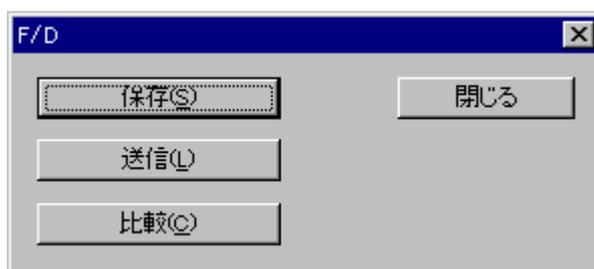
リフレッシュ時間ログ情報機能は、D.NETモジュールVer3.0以降、D.NETシステムの発行番号07-03以降に対応しています。これより前のD.NETモジュール、およびD.NETシステムでは使用できません。

### 3.7 F/D機能

機能：PCs側のシステムパラメータおよびステーションパラメータ情報のパソコンへのセーブ（保存）、セーブしたパラメータ情報をPCsへロード（送信）およびPCsとセーブしたファイルとの比較を行います。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ D.NET ] 画面から、 **F/D機能** ボタンをクリックします。
- (2) [ F/D ] 画面が表示されます。



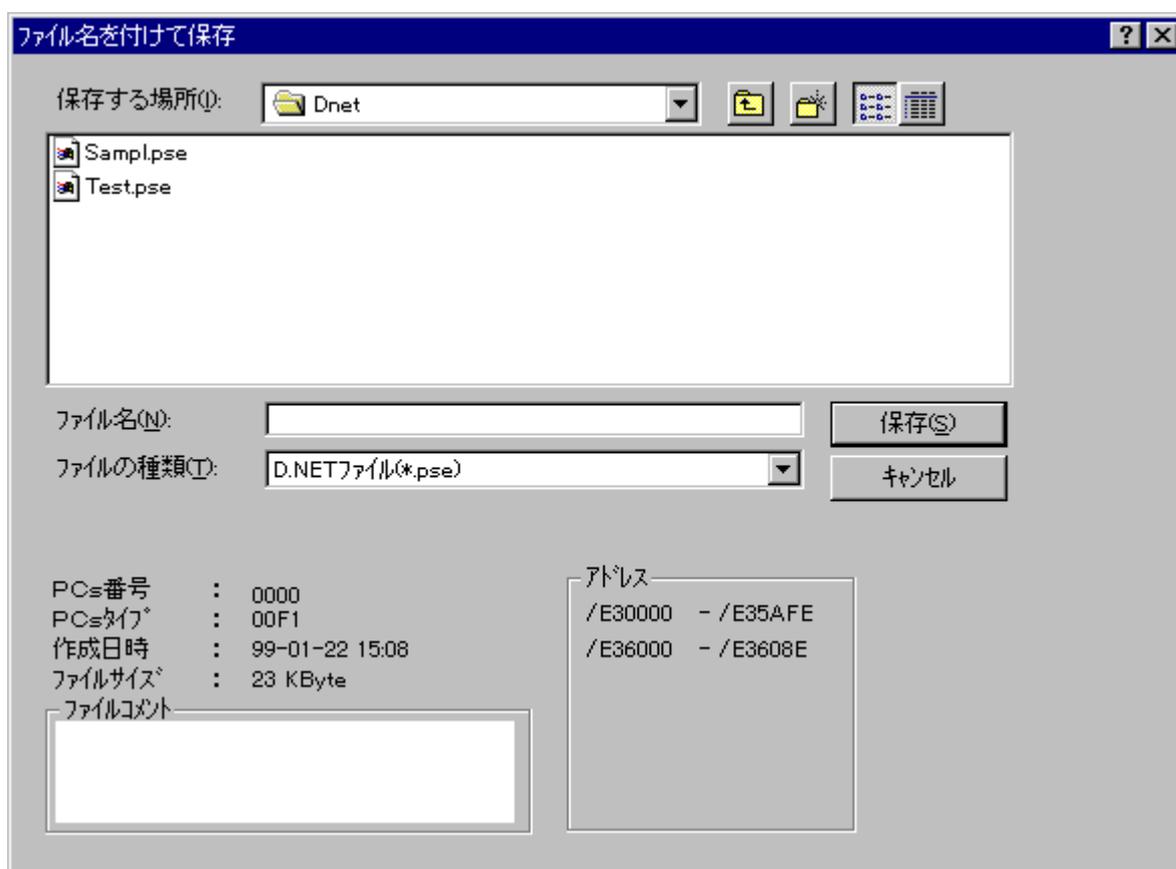
### 3 コマンド

#### 3.7.1 保 存

機能：PCs側のシステムパラメータおよびステーションパラメータ情報をパソコン上のファイルに保存します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [F/D]画面から、**保存** ボタンをクリックします。
- (2) [ファイル名を付けて保存]画面が表示されます。「ファイル名」を入力します。  
コメントが必要な場合は、「ファイルコメント」欄に入力します（最大入力文字数：全角64文字、半角128文字）。



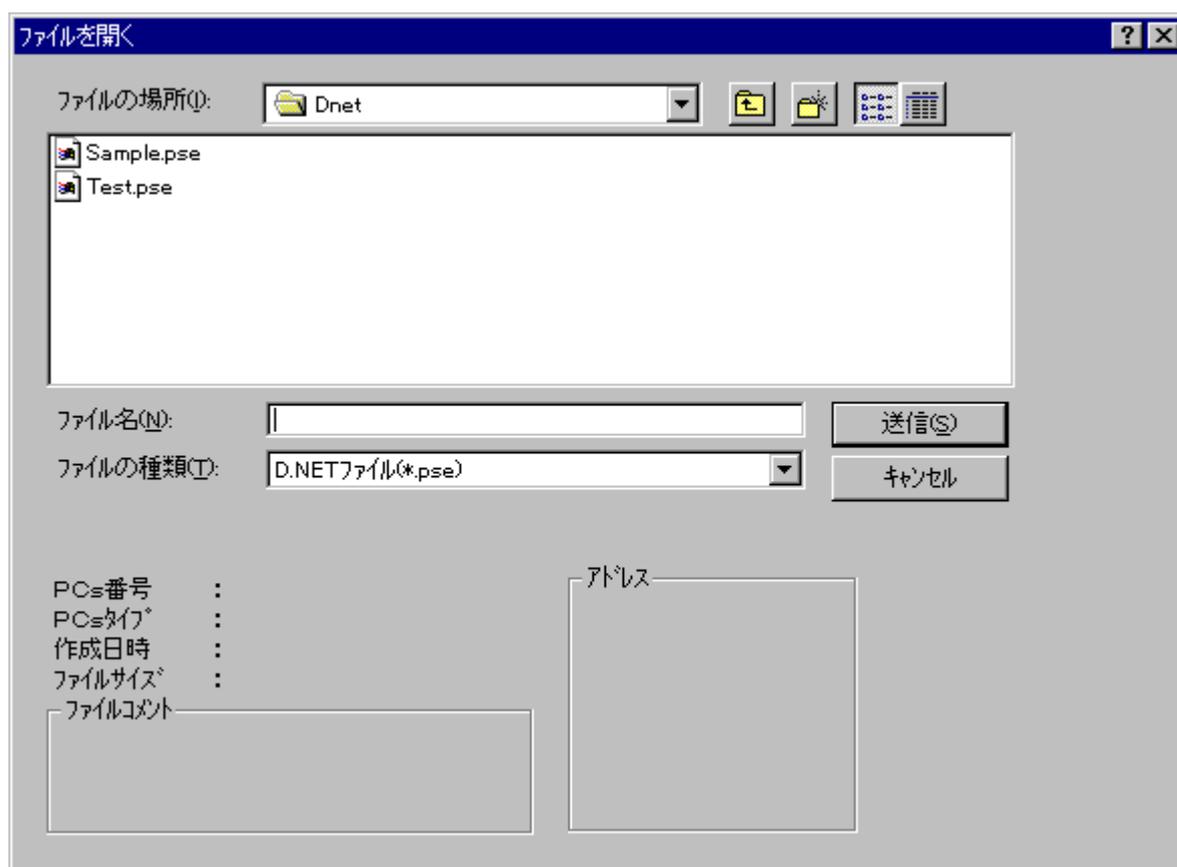
- (3) 設定が終了したら、**保存** ボタンをクリックします。保存しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### 3.7.2 送信

機能：保存機能によりパソコン上に保存したシステムパラメータおよびステーションパラメータ情報をPCsへロードします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [F/D]画面から、**送信** ボタンをクリックします。
- (2) [ファイルを開く]画面が表示されます。「ファイル名」を入力します。



- (3) 設定が終了したら、**送信** ボタンをクリックします。送信しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

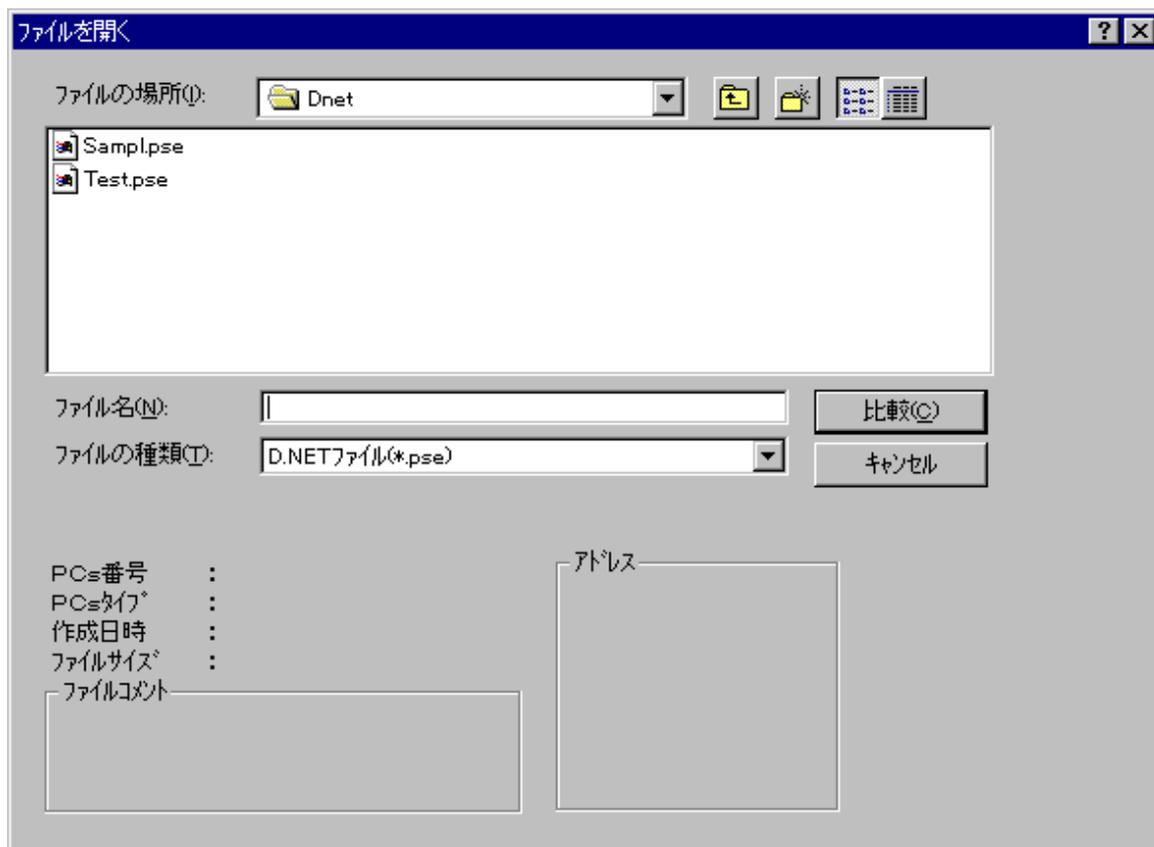
### 3 コマンド

#### 3.7.3 比較

機能：保存機能によりパソコン上に保存したシステムパラメータおよびステーションパラメータ情報とPCs側の情報を比較します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [F/D]画面から、**比較** ボタンをクリックします。
- (2) [ファイルを開く]画面が表示されます。「ファイル名」を入力します。



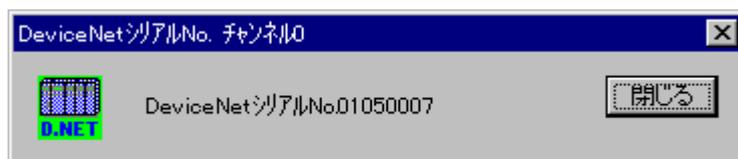
- (3) 設定が終了したら、**比較** ボタンをクリックします。比較しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### 3. 8 DeviceNetシリアルNo.

機能：DeviceNetシリアルNo.を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ D.NET ] 画面から、  ボタンをクリックします。
- (2) [ DeviceNetシリアルNo. ] 画面が表示されます。



- (3) DeviceNetシリアルNo.表示を終了する場合は、  ボタンをクリックします。

### 3 コマンド

#### 3.9 接続PCs変更

機能：PCsとパソコンの通信種類を設定します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ D.NET ] 画面から、 **接続PCs変更** ボタンをクリックします。
- (2) [ 通信種類 ] 画面が表示されます。



- (3) 通信種類がRS-232Cの場合、「RS-232C」のラジオボタンをクリックし、「通信ポート」を選択します。



- (4) 通信種類がイーサネットの場合、「イーサネット」のラジオボタンをクリックし、接続先の「IPアドレス」を入力します。



- (5) 設定が終了したら、 **OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、 **キャンセル** ボタンをクリックします。

ご利用者各位

〒101-8010

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地  
株式会社日立製作所

お 願 い

各位にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この資料をより良くするために、お気付きの点はどんなことでも結構ですので、  
下欄にご記入の上、当社営業担当または当社所員に、お渡しくださいますようお願い申  
しあげます。なお、製品開発、サービス、その他についてもご意見を併記して頂ければ  
幸甚に存じます。

ご住所 〒	_____
貴会社名 (団体名)	_____
芳名	_____
製品名	_____
ご意見欄	_____ _____